

ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas

【選定理由】

本種はアジア東部に生息するコウモリで、国内での分布は比較的広いものの生息地域における密度は低く個体数も多くない上に 1970 年以降生息数が激減していると考えられている。県内では東三河と西三河の平野部に位置する 2 市で記録されているにすぎない。本種は県内の翼手類では唯一の純粋な森林性コウモリで、良好な環境を保った森林に高度に依存している。県内では生物多様性の高い森林の消滅や減少によって局地的に存在するにすぎず、本種の生息を保証する良好な環境の不足が本種の個体群に絶滅の危惧をもたらしていると考えられる。

【形態】

体重 35~60g、頭胴長 89~113mm、前腕長 57~66mm、尾長 51~67mm、脛骨長 21.5~27.0mm、後足長 (爪を含む) 13.0~15.5mm、耳介長 17.0~20.5mm、耳珠長 8~10mm、頭骨最大長 19.7~21.9mm。大型で毛色は体が赤褐色で皮膜は黒褐色。扁平で幅の広い脳頭蓋をもち、項稜が発達している。左右の項稜が出会う外後頭隆起の部分は上方に盛り上がっている。歯式は I2/3, C1/1, P2/2, M3/3=34、脊柱式は C7+T10+L5+S5+Cd9~10=36~37 (子安・織田, 2009)。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸市広久手町、豊田市 (京ヶ峰・市木町・東山町・越戸町・飯盛山: 子安ほか, 2001; 2008; 子安, 2018)、豊川市 (原田, 1998a, b) で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、対馬、壱岐島、福江島、沖縄島での記録がある。

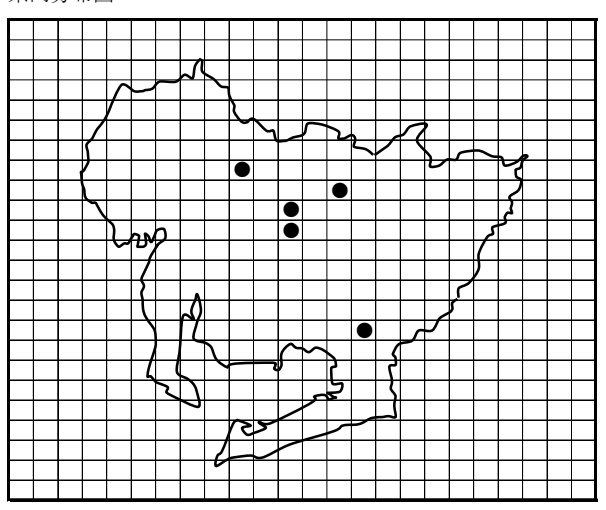
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国東部 (Fukui, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

昼間は樹洞をめぐらして休息しており、日没後に出洞して採餌し、夜明け前に戻る。飛翔性昆虫を求めて夜中も飛翔し、森林の樹冠上や開けた場所で採餌している。1 頭が 1 晩に捕食する昆虫の量は 20g にも達する (前田, 1994)。餌を求めて長距離を高速で飛翔する。仔は生後 40~45 日で親と同じ大きさになって飛翔を開始する。雌は生後数ヶ月で性成熟して秋に交尾をおこない翌年の初夏に通常 2 仔、まれに 1 仔を産む。出産・育児をおこなう雌は大きな樹洞で 20~50 頭ほどの繁殖コロニーをつくる。雄はこの時期に 1 頭から十数頭の群をつくって樹洞や鳥の巣箱にすんでいる。寿命は 6 年以上 (子安・織田, 2009 など)。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

県内には生物多様性の高い森林が限局的にしか存在せず、しかも繁殖コロニーの形成を可能にする巨木の樹洞もきわめて稀である。したがって、現時点では県内に本種の繁殖コロニーが存在する可能性はきわめて低い。本種の減少の要因は伐採による原生林の縮小によって個体群の維持が困難になったことと繁殖コロニーを確立できる樹洞がほとんど失われていることである。

【保全上の留意点】

本種が県内で繁殖しているかについては不明であるが、その飛翔能力の大きさから採餌圏として県内が分布範囲に含まれていると考えられる。当面は原生林とその周辺の広葉樹林の保全に努めるとともに、生物多様性を高めるような植林や人工樹洞の設置などを推進する必要がある。

【特記事項】

豊川市の記録は 1996 年 3 月 9 日に大崎の家屋内で死亡していたものであり (原田, 1998b)、豊田市の記録は京ヶ峰の豊田市自然観察の森 (1993 年 10 月 9 日; 2003 年 4 月 3 日)、越戸町上井畑 (2014 年 4 月 27 日) で観察されたものである (子安ほか, 2001; 子安ほか, 2008; 子安ほか, 2016)。

【引用文献】

原田猪津男, 1998a, b. ほ乳類. 新編豊川市史第十巻『自然』-本文-, pp.365-370(a). -資料-, pp.186-190(b). 豊川市, 豊川.
Fukui, D. 2015. *Nyctalus aviator* Thomas, 1911. The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.76-79. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.

子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編 自然, pp.586-603. 豊田市, 豊田.

子安和弘・織田銃一, 2009. ヤマコウモリ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.69. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

子安和弘・小林秀司・大竹 勝, 2001. 愛知県の食虫類と翼手類. マンモス特別号, (3): 19-34.

子安和弘・水野マリ子・佐竹義雄, 2008. 愛知県で生息が確認された 3 例目のヤマコウモリ. マンモス特別号, (10): 19-24.

子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その 3>, pp.337-367. 豊田市, 豊田.

(子安和弘・織田銃一)